

Introduction of the Asahi Kasei Group

旭化成グループのご紹介

Asahi**KASEI**

社会課題の解決に向け、 我々は突き進む

旭化成は、「世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献する」というグループ理念のもと、常に社会課題と向き合ってきました。1922年の創業以来、化学を基盤とするコア技術を発展させながら、住宅、エレクトロニクス、医薬・医療と事業を展開し、現在は「ヘルスケア」「住宅」「マテリアル」という3つの領域を手掛ける世界的にもユニークな企業として、持続的にイノベティブな製品・サービス・ビジネスモデルを創出することを目指しています。

時代や社会は変化し続け、カーボンニュートラルや健康長寿社会の実現など、課題はいまだ山積しています。当社の事業やビジネスの在り方も変わりますが、創業から受け継がれてきた人類貢献の想いは、決して変わることはありません。旭化成はこれからも、グローバルに広がる仲間とともに、社会が待ち望むさらなるイノベーションの期待に応えるために、力強く突き進みます。

旭化成株式会社 代表取締役社長
工藤 幸四郎



Creating for Tomorrow

私たち旭化成グループの使命。

それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、
より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。

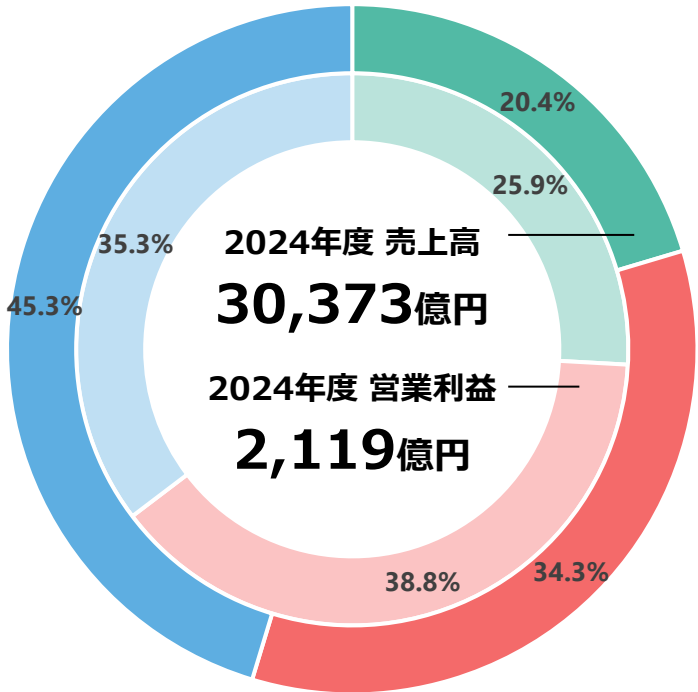
創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、

次の時代へ大胆に応えていくために一。

私たちは、昨日まで世界になかったものを創造し続けます。



3つの事業領域を通じ、“いのち”と“暮らし”に貢献



※「消去又は全社」を除く事業セグメントで比率を記載

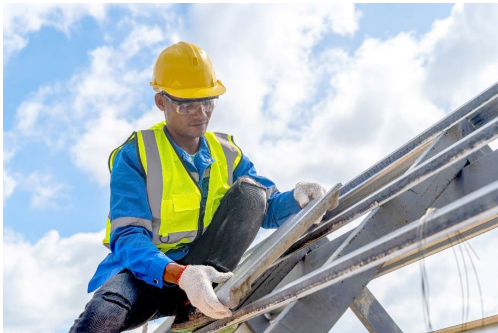
商号	旭化成株式会社
創業	1922年5月25日
本社	東京都千代田区
従業員数	50,352名（連結）

※2025年3月末時点



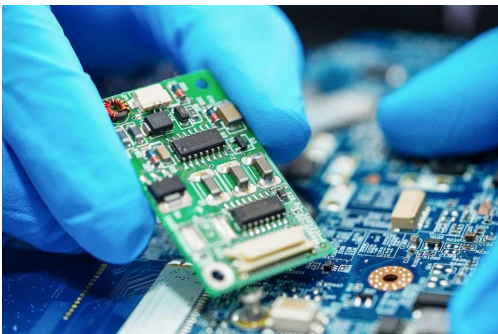
Healthcare

“Improve and save patients’ lives” のミッションの下
アンメットニーズを満たす革新的な医薬や
医療機器の提供で、人びとの命に貢献



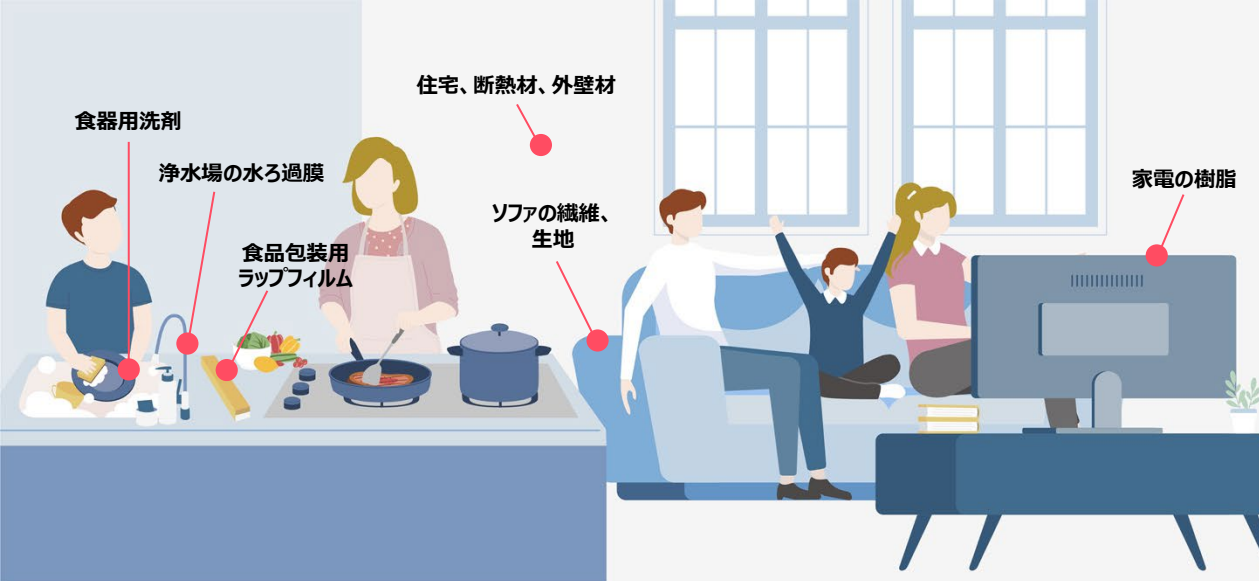
Homes

高品質で耐久性に優れた住宅・建材や、
住まいに関するさまざまなサービスの提供を通じ、
安心で豊かな暮らしを実現

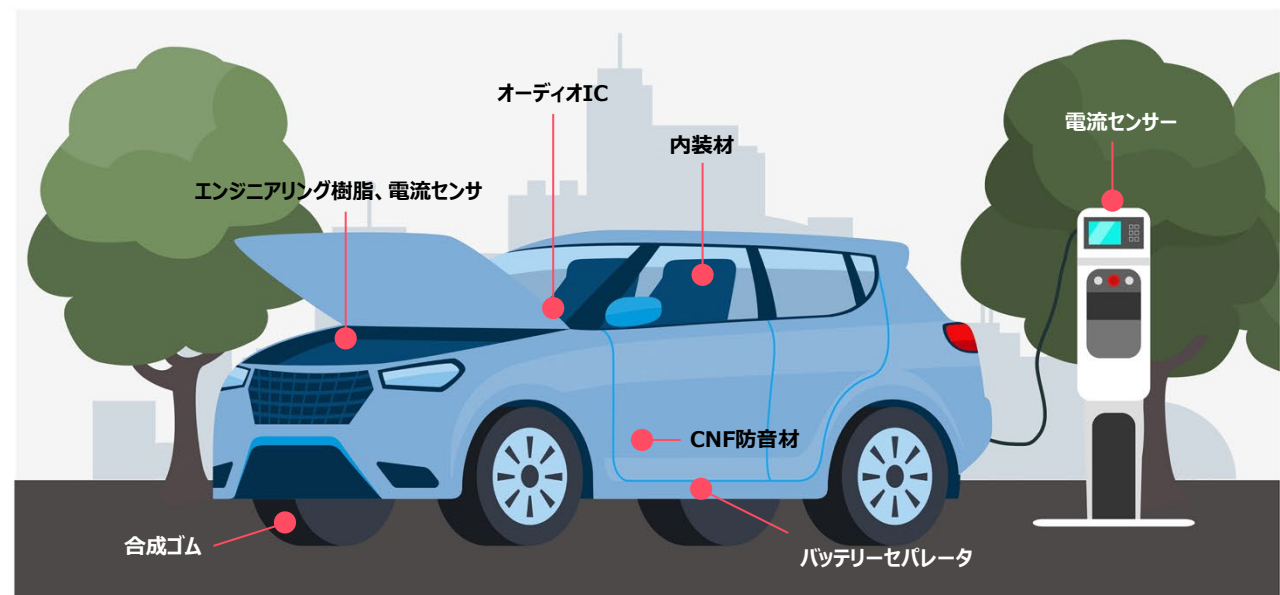
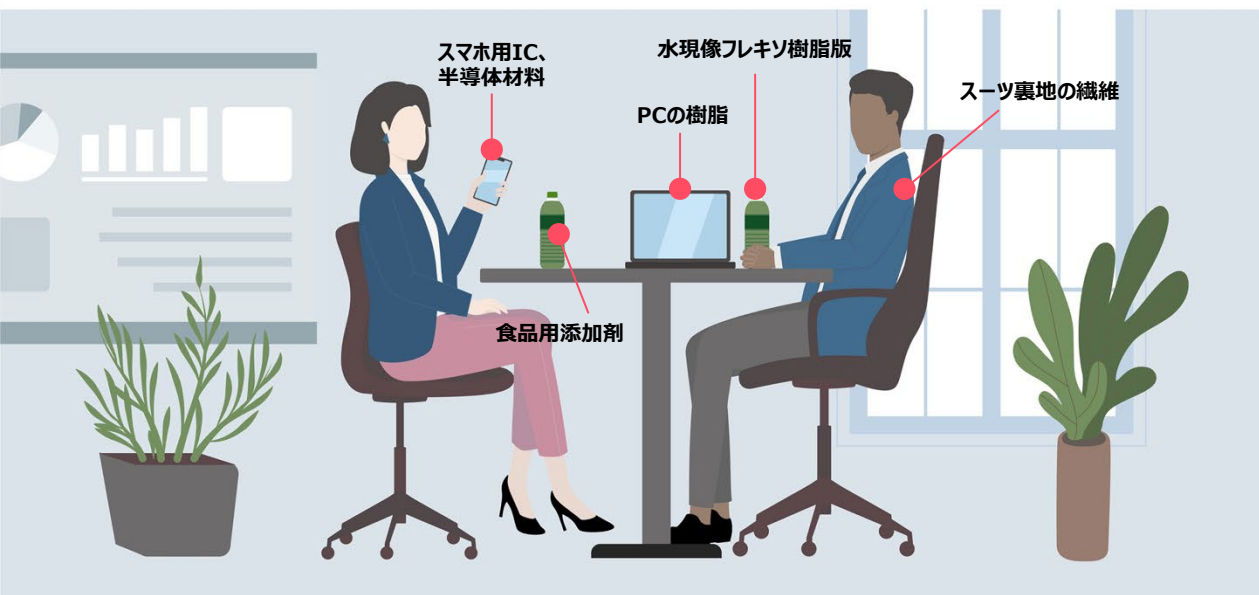


Material

“素材・化学”の技術・知見を活かし、
地球と人びとのより良い暮らしに貢献する
サステナブルソリューションを提供

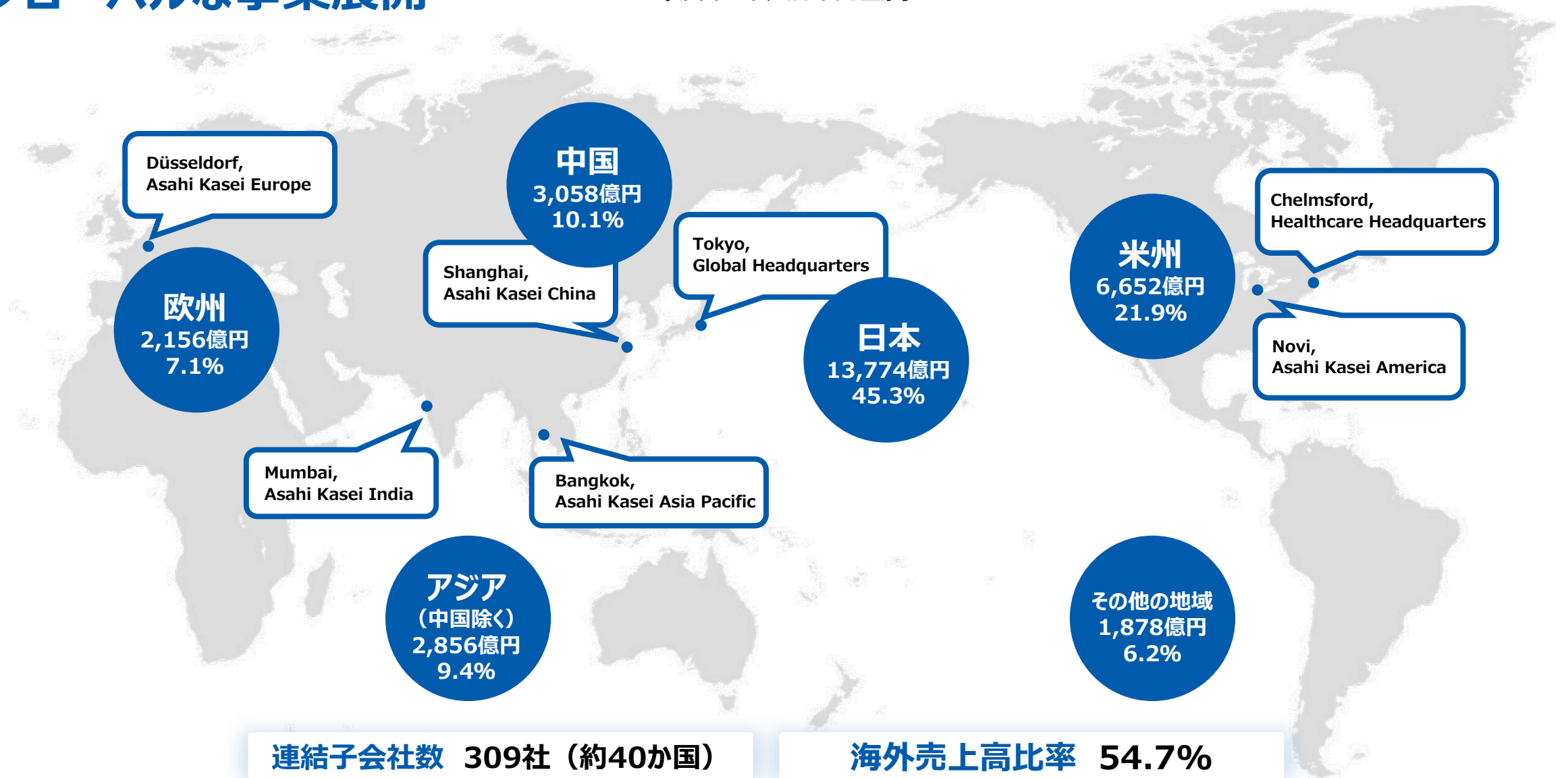


“いのち”と“暮らし”を支える旭化成グループの製品



グローバルな事業展開

2024年度のエリア別の売上高



※比率はグループ全体の売上高における構成比

事業を変革し、社会課題の解決に貢献

		マテリアル		住宅	ヘルスケア	その他
年代	社会のニーズ・時代背景	主な事業展開と売上高構成				
		●新規参入・M&A				
1922年～	農業や重化学工業の発展	創業、日本初の合成アンモニアの製造  5,600万円 ※1940年度				
		●アンモニア ●化学繊維 ●化学肥料 ●合成繊維 ●樹脂 ●食品				
1960年～	住生活向上、医療発展、社会資本整備	石油化学、住宅、ヘルスケア、エレクトロニクス分野へ展開  449億円 ※1960年度				
		●消費財 ●石化事業 ●合成ゴム ●戸建住宅 ●人工腎臓 ●建材				
1980年～	効率化、利便性の向上（携帯電話、PC、AV機器の普及）	LSIやリチウムイオン電池など情報機器のキーパーツを供給  8,001億円 ※1980年度				
		●電子部品 ●リチウムイオン電池用セパレータ ●集合住宅 ●断熱材 ●医薬品 ●ウイルス除去フィルター				
2000年～	世界的な医療ニーズの増大	M&Aによるグローバル化の加速、ヘルスケア事業の拡大  12,694億円 ※2000年度				
		●電子コンパス ●救命救急医療機器 ●自動車内造材				
2020年～	環境課題解決、健康長寿社会の実現	気候変動やアンメットメディカルニーズなど世界的な課題に解決に資する事業・技術を展開し、持続可能な社会の実現を目指す  30,373億円 ※2024年度				
		●水素製造システム（実証実験中） ●睡眠時無呼吸症診断・治療 ●CDMO（医薬品受託製造） ●海外住宅				

コア技術とともに未知の領域に挑み、多角的に事業を展開

1922年
当社の創業
旭絹織株式会社 設立

1931年
当社の設立
延岡アンモニア絹織株式会社 設立
アンモニア、硝酸等化成品を製造販売

1935年
食品事業へ進出
グルタミン酸ソーダを生産開始



1967年
建材事業へ本格進出
軽量気泡コンクリート「ハーベル™」を生産開始



1968年
石油化学事業へ本格進出
山陽石油化学株式会社 設立

1972年
住宅事業へ本格進出
戸建住宅「ハーベルハウス™」の本格販売を開始



創業

総合化学メーカーとしての成長

多角化の推進

1957年
合成樹脂事業へ進出
旭ダウ株式会社がポリスチレンを生産開始



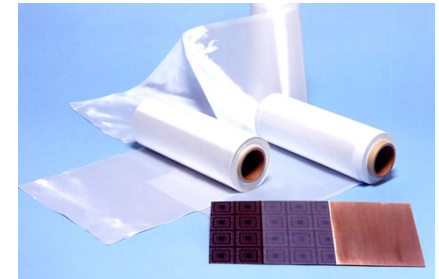
1960年
樹脂製品事業へ進出
「サランラップ®」を生産開始



1959年
合成繊維事業へ本格展開
アクリル繊維「カシミロン™」を本格生産開始



1971年
エレクトロニクス事業へ進出
旭シュエーベル株式会社 設立



時代を先取りし、グローバル経営を加速

1974年

医療事業へ進出

人工腎臓を生産開始



1980年

宮崎電子株式会社（現旭化成電子株式会社） 設立
ホール素子を生産開始

1982年

合成樹脂事業を強化

旭ダウ株式会社を合併

2012年

クリティカルケア事業へ進出

米国ZOLL Medical社を買収



2020年

医薬事業を強化

米国Veloxis Pharmaceuticals社を買収

2022年

CDMO事業に進出

米国Bionova Scientific社を買収



2022年

創業
100周年

多角化の推進

グローバル化の進展

新たな挑戦

1978年

医薬事業へ本格参入

経口制ガン剤「サンフール™」を販売開始



1983年

LSI事業へ本格展開

旭マイクロシステム株式会社 発足



2017年

海外住宅事業へ進出

豪州McDonald Jones社と資本提携
※2019年米国Synergos社 設立
※2021年豪州NEX Building Group 立ち上げ



2024年

グローバルスペシャリティファーマとしての基盤強化

瑞典Calliditas Therapeutics AB社を買収



- Topics -

2024年

川崎製造所にて水素製造用アルカリ水電解
パイロット試験設備を本格稼働



大規模かつ信頼性の高い水電解装置を
電力、運輸、化学、製鉄分野などの
幅広い企業に提供



カーボンニュートラルへの貢献

- Topics -

2024年
カナダにリチウムイオン電池用
セパレータ工場を建設



※2027年商業運転開始見込み

高生産性・高安全・長寿命なLIBの供給
によりEV市場の成長を後押し



カーボンニュートラルへの貢献

- Topics -

2024年

住宅建築工事を請け負うサブコントラクター
米国ODC Construction社を買収



**強力な事業基盤、
効率的な事業モデル**を活用した、
施工の効率化・品質の向上



良質な住環境の提供

- Topics -

2024年
スウェーデン製薬企業
Calliditas Therapeutics社 を買収



※原発性IgA腎症の進行リスクがある成人患者において、腎機能の低下を抑制し、病状の進行を防ぐことが示された、当該疾患に対する“世界初”のFDA承認治療薬
(参考：[FDAニュースリリース](#))

グローバルスペシャリティファーマとしての
プラットフォームを活用し、新たな医薬品や
開発パイプラインの導入機会を拡充



アンメットメディカルニーズに応える

ヘルスケア領域



医薬事業

事業会社 旭化成ファーマ / ベロキシス

取扱製品 医療用医薬品など

ライフサイエンス事業

事業会社 旭化成ライフサイエンス

取扱製品 製薬プロセス分野など



クリティカルケア事業

事業会社 ゴール・メディカル

取扱製品 除細動器、人工呼吸器、在宅用睡眠時無呼吸症診断など

住宅領域



住宅事業

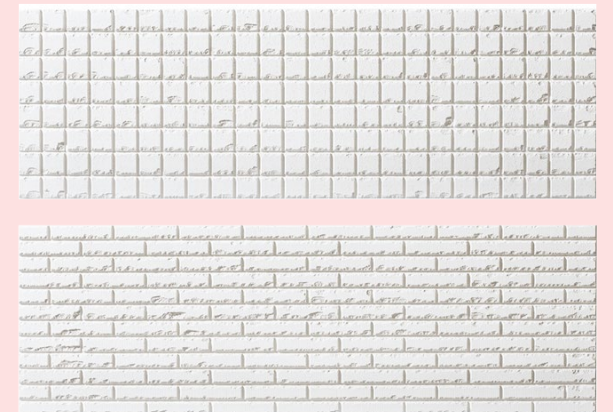
事業会社 旭化成ホームズ

取扱製品 戸建住宅・集合住宅、マンション開発・宅地開発など

建材事業

事業会社 旭化成建材

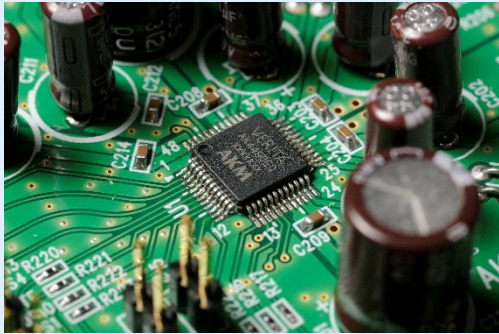
取扱製品 軽量気泡コンクリート（ALC）、フェノールフォーム断熱材
杭基礎、構造資材など



マテリアル領域

エレクトロニクス事業

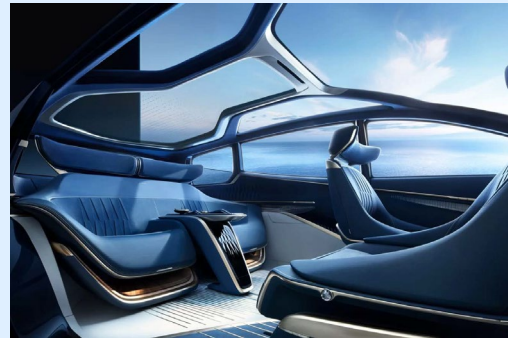
事業会社 旭化成 / 旭化成エレクトロニクス



取扱製品 電子部品、電子材料、LEDなど

カーインテリア事業

事業会社 旭化成



取扱製品 人工皮革など

エネルギー＆インフラ事業

事業会社 旭化成



取扱製品 ろ過膜、交換膜、リチウムイオン電池用セパレータなど

コンフォートライフ事業

事業会社 旭化成



取扱製品 キッチン・ハウスホールド用品、感光材、繊維添加剤、化薬など

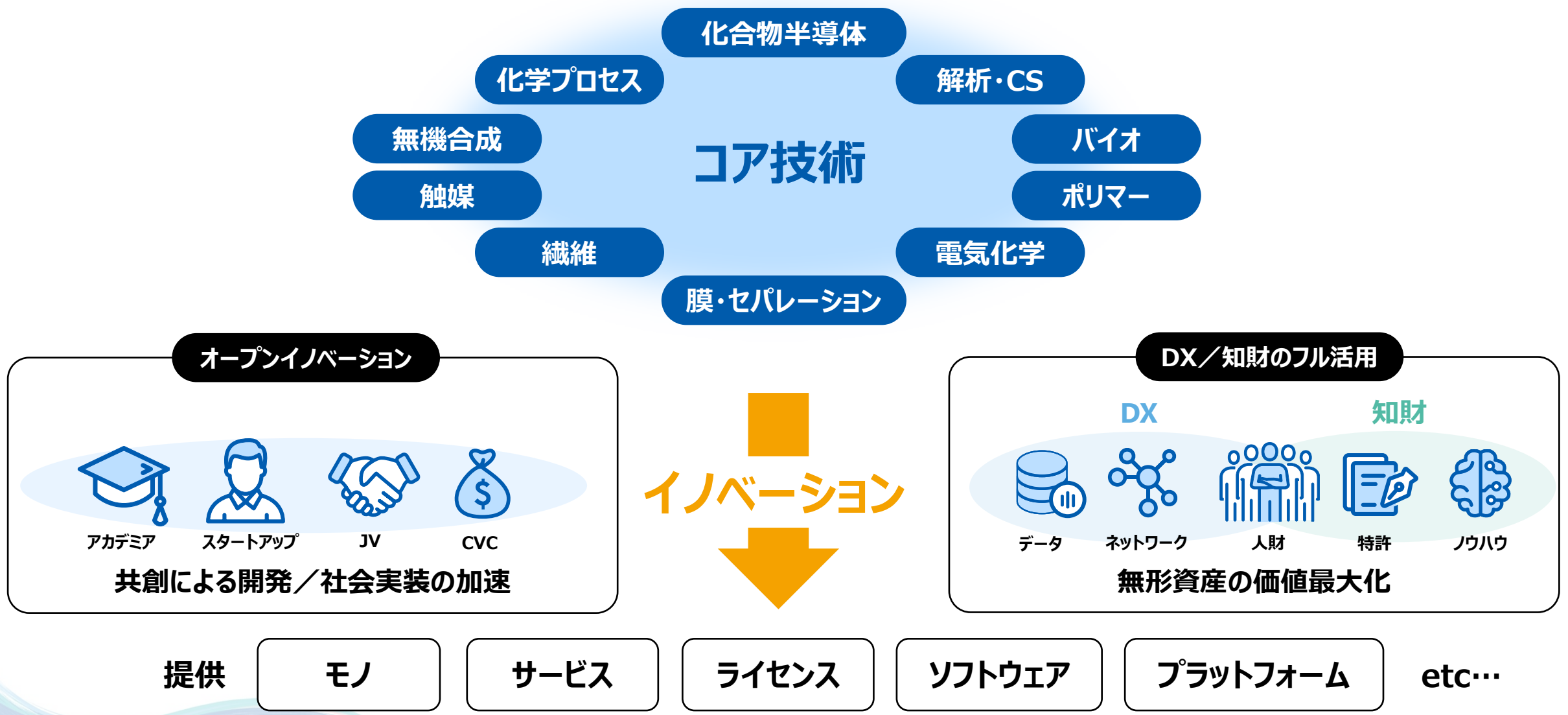
ケミカル事業 (パフォーマンスケミカル・エッセンシャルケミカル)

事業会社 旭化成



取扱製品 基礎化学品、モノマー、ポリマー、合成ゴム、エラストマー、高機能ポリマー、発泡樹脂など

モノ売りからコト売りまで、コア技術を活かした新事業創出へ



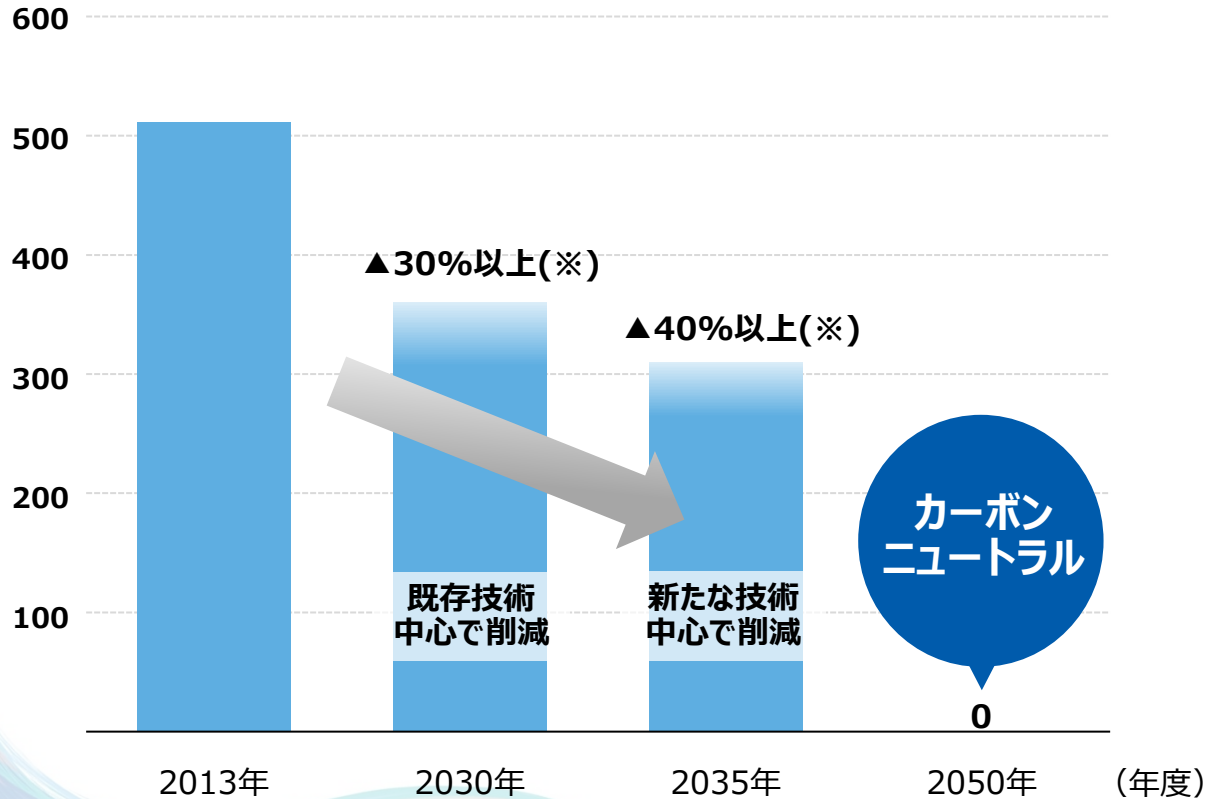
グリーントランスフォーメーション（GX）

2050年のカーボンニュートラルを目指しGHGを削減

当社のGHG削減

GHG排出量
(万t-CO₂e)

既存：自家発電低炭素化、購入電気非化石化、プロセス改善・革新 など
新規：電気/蒸気 グリーン化（アルカリ水電解、CO₂分離・回収） など

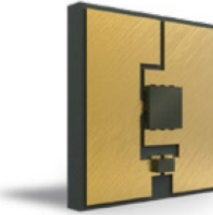


社会のGHG削減

主な環境貢献製品



リチウムイオン電池セパレータ



水殺菌用UVC-LED



イオン交換膜食塩電解プロセス



断熱材 ネオマフォーム™



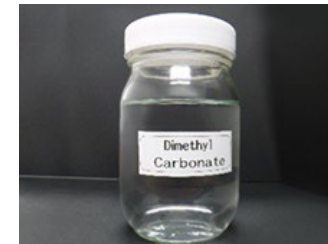
ヘーベルハウス™



印刷版 感光性樹脂 AWP™



CO₂を原料としたポリカーボネート(左)・ジメチルカーボネート(右)の製造プロセス

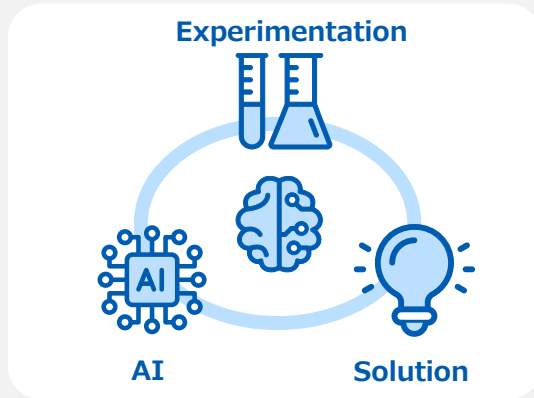


人工皮革 Dinamica®

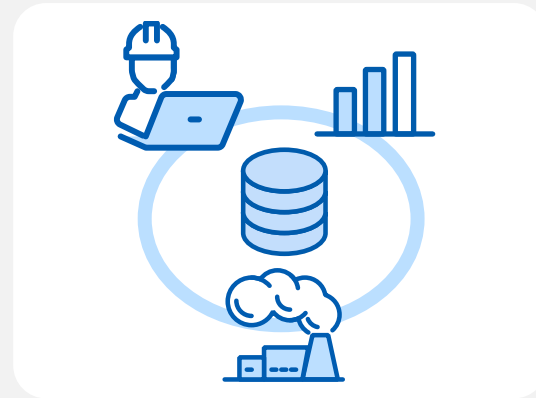
デジタルトランスフォーメーション（DX）

ビジネスモデル変革、価値創造をリードするデジタル技術活用を推進

マテリアルズ・インフォマティクス（MI）



スマートファクトリー



マーケティングオートメーション



IPランドスケープ



旭化成の主なDXの取り組み

DX事例

ウイルス除去フィルター「プラノバ™」の高性能化

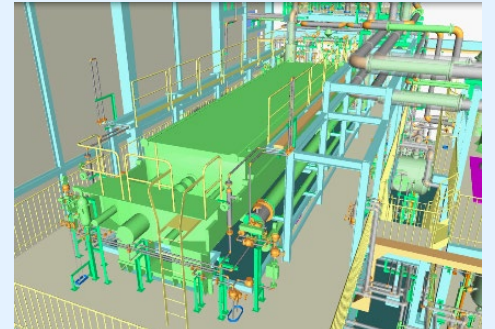
実験だけでは見つけられなかった製造プロセス条件の組み合わせを、MIを適用して発見。優れた過流量を実現した競争力の高い新製品を開発。



DX事例

デジタルツインによる工場の変革

3Dモデルを活用し、運転の最適化、保守保全の高度化と遠隔管理、オペレーター作業の負荷低減を実現することを目指す。



人財戦略

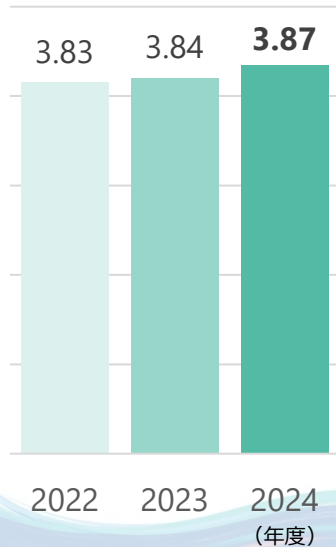
多様な個の“終身成長”と“共創力”で未来を切り拓く

KSA（活力と成長のアセスメント）

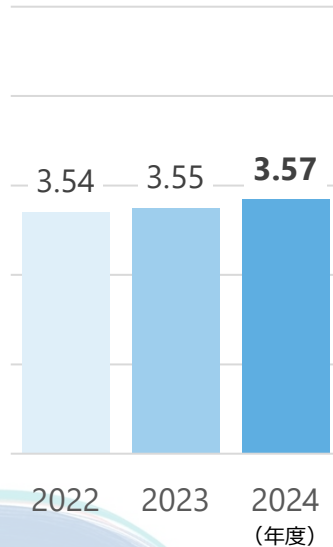
個人と組織の状態を可視化することで、従業員のワークエンゲージメントや挑戦・成長につながる行動を促し、PDCAを効果的に回す。

KSA 3指標の推移

上司部下関係・職場環境

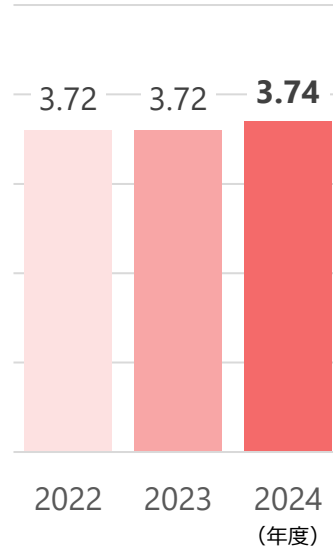


活力（エンゲージメント）



成長につながる行動

「挑戦・成長」のKPIとして注視



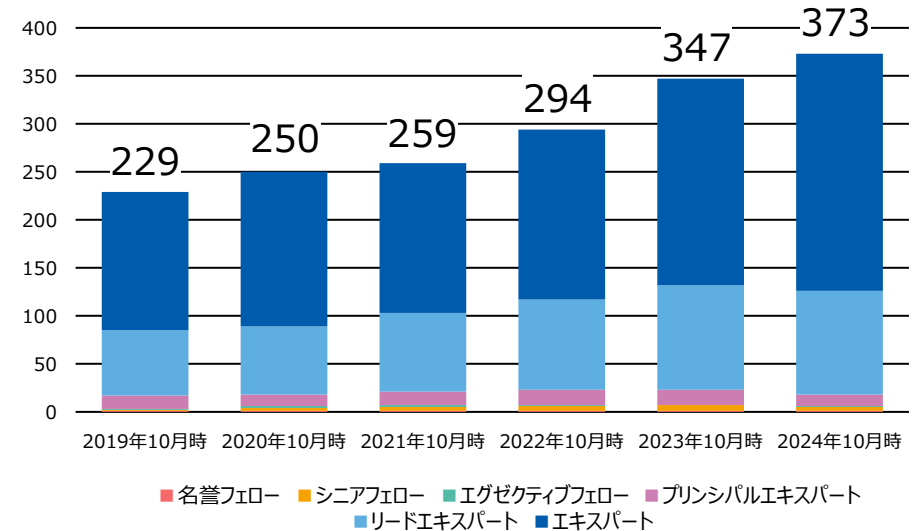
高度専門職制度

新事業創出、事業強化へ積極的に関与し、貢献することが期待できる人財を「高度専門職」として任命、育成、処遇することで、社内外に通用する専門性の高い人財の層を厚くする。また多様な“個”の共創でイノベーションを起こす。



名誉フェロー 吉野 彰

リチウムイオン電池の基本構造を発明した旭化成の吉野 彰は、高度専門職の最高位である名誉フェローです。



高校生の事業所見学受け入れ@米国



植林活動と森づくり@日本



「次世代育成」、「環境との共生」、「文化・芸術・スポーツ振興」を主なテーマに、
世界中でさまざまな社会貢献活動を実施



五輪出場選手との柔道教室@ドイツ



学校給食の寄付@インド

AsahiKASEI

旭化成株式会社

本社 〒100-0006 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号

日比谷三井タワー

発行 2025年8月

